

教育

『4つの力』スタートアップセミナー』の全学的展開 【P.4左(1)】

- 全学的な初年次向け教育プログラム『4つの力』スタートアップセミナー』の実績を踏まえた公開FD「三重大学初年次教育の展開と検証」を実施

◇初年次教育に対する学外からの高い評価を伴った教育成果の獲得

- ・公開FDの学外参加者：約40名（12都道府県）
- ・アンケート調査を通じて高い満足度と肯定的評価を獲得

学生の主体性確立による教育成果向上に向けた取組 【P.4右(2)】

- 全学的なPBL型授業の拡充 [409科目(H22)→556科目(H23)]
- 「三重大学 e-ポートフォリオ」(学生がウェブサイトを通じて学習履歴や成果を保存し、自己省察できるシステム)の利用者拡充
- PBL型授業等の推進に関して、他大学等への実践指導や出張講演(9件)と他大学による本学への調査訪問

◇学生の主体的な学習による教育成果の向上

- ・e-ポートフォリオの利用者拡充 [学部生 646名(H22)→792名(H23)]
- ・学業優秀学生の学長表彰 [学部卒業生：51名、大学院修了生：27名]

学生支援活動の強化と新たな取組 【P.4右(3)】

- 学生ボランティア活動に対する修学上の支援制度を整備
- 大学生の就業力育成支援事業を活用した「特任講師」の採用 [教員・職員・学生の3者による円滑な協働事業の展開]
- 事務組織体制の再編による外国人留学生への支援体制強化

◇活発な学生支援活動の展開

- ・ボランティア支援制度：延べ43名の学生が利用
- ・就職ガイダンスを27回開催・7,072名 [22年度：25回開催・4,986名]

附属病院

確かな医療人養成や高度先進医療の充実に向けた各種取組 【P.6右(7)】

- 医学部医学・看護学教育センターとの連携による医学部5年終了時を対象とした卒前教育では、診療参加型臨床実習の実質化に向けて臨床技能スキルセミナー及び修了試験を実施し、「Student-Doctor」(臨床技能優秀学生)を認定
- 卒後初期研修から専門医教育では、スキルズラボ(体験型医療技術研修センター)での実践教育等を通して、基本技術習得から高度な専門技能の習得をシームレスにサポート
- 初期研修プログラムではNPO法人MMC卒後臨床研修センターと連携し、三重県全体で自由度の高い選択的プログラムを実施できる体制を整備
- 後期研修プログラムでは、質の高い臨床教育の実践や臨床研修指導医70名以上を新たに育成
- 新病院の開院(平成24年1月)に伴う設備の充実化により、三重県唯一の特定機能病院として一層の高度先進医療の実践

◇豊かな人間性を持った確かな医療人の養成

- ・「Student-Doctor」(臨床技能優秀学生)として105名を認定

三重の力を世界へ

平成23年度(2011)の実績・その1

— “教育研究等の質の向上”に係る状況編 —

国際化

多様な手法による国際交流の推進 【P.6左(6)】

[全学的な国際交流活動]

- 3大学国際ジョイントセミナー&シンポジウム(三重大学、チェンマイ大学(タイ)、江蘇大学(中国)によって平成6年度に創設した国際化推進事業)へ学生・教職員が参加
- 国際インターンシップ(タイ・韓国)の推進
- 日本学生支援機構が実施する「留学生交流支援制度」(ショートステイ、ショートビジット)を活用した国際交流の推進
- 三重県内のユネスコスクール拡大に向けた積極的な取組の実施
- 国際交流週間2011による多様なイベントの実施

[部局別の国際交流活動]

- 天津師範大学(中国)・教育学部、スリウィジャヤ大学(インドネシア)・生物資源学研究科のダブル・ディグリープログラムを推進
- 医学部の海外協定校へ学生を派遣する「海外臨床実習」、「早期体験海外実習」の推進
- 人文学部のGlow in Asia国際ワークショップ(6カ国・34名参加)における若手言語学者の研究発表・国際交流の実施
- 工学研究科の海外協定校との連携による国際シンポジウムを開催し、修士課程学生250名が英語による研究発表や、ICTを活用した海外学生の研究発表の実施

◇全学・部局双方による多様な国際交流の推進

- 「3大学国際ジョイントセミナー&シンポジウム」(江蘇大学にて学生15名(学部5、大学院10)が英語による研究発表を実施)
- ダブル・ディグリーの推進
天津師範大学(教育学部)：第1期生15名へ学位記の授与と第2期生22名の受入れ
スリウィジャヤ大学(生物資源学研究科)：第1期生3名へ学位記の授与
- ショートステイ、ショートビジットの活用 [申請17→採択15] [平成23年実績：学生111名の派遣、留学生24名の受入]
- ユネスコスクール活動の登録拡大 [既存6校→新規10校の申請]
- 医学部の海外協定大学との国際交流
「海外臨床実習」(第6学年対象)：39名を派遣
「早期体験海外実習」(第1~4学年対象)：36名を派遣

研究

社会連携研究センターの改編等による産学官連携活動 【P.5左(4)】

●特筆すべき研究活動

研究課題名	部局名
マラリア原虫薬剤耐性遺伝子を同定する革新的技術の開発	医学系研究科
新世代全固体フレキシブルリチウム二次電池の開発	工学研究科
相分離変換法を用いた木質バイオマスの全量活用型低コストエタノール製造技術実証研究	生物資源学研究科

- 「地域戦略センター」を活用した「地域活性化プランスタートアップ促進業務」「MIE起業道場」など地域の活性化や起業家の育成等を実施
- 「研究展開支援拠点」(食品素材探索ラボ)を活用した三重県公設試験研究所との連携による「拠点企業ネットワーク」(食品関連企業等で組織する団体)を発足し、会員企業との共同研究開発等の実施 [会員企業による高速液体クロマトグラフ等の機器利用実績：延べ1,176件・7,928時間]

◇新規の研究プロジェクト等を受託

組織名	新規の受託事項
地域戦略センター	プロジェクト10件、51,600千円 (地方自治体等7件、民間企業等3件)
研究展開支援拠点 (食品素材探索ラボ)	共同研究：3件、4,210千円 受託試験：1件、約720千円

◇共同研究等の増加件数・金額(22年度比) [金額：千円]

区分	共同研究	受託研究	奨学寄附金	前年度比 増加件数・金額
増加件数	13	21	22	56
増加金額	19,294	159,281	72,414	250,989

社会との連携

地域防災事業の推進 【P.5右(5)】

- 「美(うま)し国おこし・三重さきもり塾」の第2期卒業生を輩出
- 三重県との協働事業「みえ防災コーディネーター育成講座」の継続と「みえ企業等防災ネットワーク」(加盟企業199社)の発足
- 三重さきもり塾の卒業生を中心とした「三重さきもり倶楽部」の活動支援

◇三重県内における防災拠点の基盤形成や、防災人材育成による地域社会のセーフティネット形成の促進

- ・さきもり塾卒業生 特別課程生：12名(入塾13)・[22年度：17名(入塾19名)]
入門コース：48名(入塾49)・[22年度：46名(入塾47名)]
- ・みえ防災コーディネーター169名の認定

環境

「世界一の環境先進大学三重」に向けた多様な取組【P.8右(2)】

- 環境ISO学生委員会による3R (Reduce, Reuse, Recycle) 活動を継続して実施
- 環境マネジメントシステム(EMS)に基づいた” COOL ACTION” ” WARM ACTION” をはじめとするエネルギー使用量の低減化等の実施及び地下水供給プラントの給水を開始
- 平成19年に取得した日本初の全学一括の環境ISO14001の継続審査を受審
- 環境マネジメントの中核組織「環境管理推進センター」を設置(環境ISO推進室とカーボンフリー大学推進室の統合)し、全学的な省エネや啓発等を実施

- ◇全国の大学で初めて「三重大学スマートキャンパス実証事業」(H23-25)が、経済産業省の次世代エネルギー技術実証事業に採択
- ◇三重大学環境報告書2011が東洋経済新報社「第15回環境報告書」の「公共部門賞」を受賞
- ◇夏期・冬期のエネルギー使用量を平均約10%削減した(22年度比)
- ◇環境ISO14001認証の継続

三重の力を世界へ

平成23年度(2011)の実績・その2
 - “業務運営・財務内容等”の状況編 -

勢水丸

教育関係共同利用拠点事業の推進【P.8左(1)】

- 「教育関係共同利用拠点事業」(文部科学省)に基づいた、他大学による練習船「勢水丸」の有効利用
- 拠点事業の円滑な推進を図るため「勢水丸教育共同利用拠点支援室」を設置
- 尾鷲市と連携して開発した「食文化に関する教育カリキュラム」によって試乗航海の実施

◇「勢水丸」を活用した他大学による海洋調査実習等を実施

大学名	利用期間	乗船者数
四日市大学	7/23~25	25名(うち学生21名)
名古屋大学	9/26~29	9名(うち学生5名)

総合防災訓練

学内防災力向上に向けた総合防災訓練の実施【P.24左①】

- 防災意識の向上等を目差した「三重大学教職員・学生防災研修」の実施
- 東海・東南海・南海地震の同時発生を想定し、学外高台への避難訓練や図上訓練等による「三重大学総合防災訓練」(学生・教職員約450名が参加)を実施

◇災害時の被害最小化に向けて、避難訓練の検証結果を「三重大学津波避難基本計画」の策定や、本学の危機管理マニュアルの修正に反映

自己収入・経費削減

自己収入の増収に向けた新たな取組の実施【P.17左①】

- 新たな取組として「学内企業研究会」の参加企業に対する出展料の徴収
- 民間企業等との連携を強化するため、「地域戦略センター」の設置など社会連携研究センターの機能と組織を再編成

◇「学内企業研究会」の出展料徴収等により、学校財産貸付料等の自己収入額が前年度比で約720万円の増収

◇共同研究・受託研究・奨学寄附金の件数・金額の増加(22年度比)

●民間企業等との共同研究等の状況 (金額:千円)

区分	年度	22	23	前年度比増減額等
共同研究	件数	251	264	13
	金額	392,597	411,891	19,294
受託研究	件数	169	190	21
	金額	729,322	888,603	159,281
奨学寄附金	件数	1,205	1,227	22
	金額	727,578	799,992	72,414
合計	件数	1,625	1,681	56
	金額	1,849,497	2,100,486	250,989

管理的経費の削減に向けた施策の実施【P.17右③】

- 保全業務と環境緑化保全業務に係る契約手続きの一元化を行い、平成24年度からは複数年契約を締結
- 派遣業務契約及び職員宿舎管理委託業務について、平成24年度から再雇用職員への業務移行を決定
- 本学独自の環境マネジメントシステムに沿って、資源消費の低減や二酸化炭素排出量の削減を推進

◇平成23年度の光熱水料や消耗品費等の管理的経費は、前年度比で約4,000万円(約14.4%)の削減
 [約279,000千円(H22) → 約239,000千円(H23) 削減額約40,000千円]

教育組織

社会的ニーズに沿った教育組織等の見直し【P.13左①】

- 社会的ニーズの動向等調査等を踏まえ、平成24年度4月受入分より、入学定員に対する充足状況の適正化と教育組織の改編策を実施

- ◇人文社会科学研究科:入学定員を改訂
- ◇教育学研究科:3専攻を1専攻とする組織改編

●人文社会科学研究科の入学定員改訂

専攻名	入学定員	
	平成23年度	平成24年度
地域文化論専攻	5	8
社会科学専攻	5	7

●教育学研究科の組織改編

旧専攻名	入学定員	新専攻名	入学定員
学校教育専攻	5	教育学専攻	41
特別支援教育専攻	3		
教科教育専攻	33		